

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1195300072		
法人名	株式会社ひまわりケアサポート		
事業所名	北本ひまわりケアサポート		
所在地	埼玉県北本市中丸7-52-1		
自己評価作成日	令和5年11月18日	評価結果市町村受理日	令和6年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和6年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者がやりたいことを可能な限り尊重し、介助者都合の介入はしない様に取り組んでいる。 ・ADLの低下を少しでも遅らせるために体操や散歩を多く取り込んだスケジュールを組んでいる。 ・平屋で天井が高い設計により、開放感があり迷いにくい施設となっている。 ・感染対策優良施設として県に認定されており、ご家族にも安心していただける。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・大勢で夏祭りやクリスマスなど季節行事やレクリエーションを楽しまれたり、野菜やスイカ、ひまわりの花を育てられたり、時にはひとり居室でゆっくり過ごされるなど、共同生活の中でも、利用者個々の思いを大切に、その人らしく、明るく楽しい時間を過ごされるようきめ細かな支援に取り組まれている。 ・運営推進会議では、事業所から利用者の暮らしぶりや活動報告のほか、事業所の取り組みについての質問や評価、事故防止対策や地域の情報提供を頂くなど、幅広い内容での意見交換が行われ、有意義な会議運営をされている。 ・目標達成計画については、前年度は外部評価の実施は緩和されたものの、定期訓練では火災発生を想定し、新任教員を中心に初期消火・通報・避難誘導訓練に取り組まれている。また、地震やライフライン断絶対策の検討・備品整備にも取り組まれていることから、目標の達成が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員間の風通しを良好にし、ご利用者様優先で、理念の共有ができています。現場の意見を多く取り入れるように管理者も現場に頻りに行くようにしている。	「ご利用者様に安心・信頼される介護サービスと花のように明るい人生を」という理念のもと、利用者の思いを大切に、その人らしく、安心して元気に過ごされるよう支援に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議や連絡部会での情報収集や、地域の祭りへの参加、市役所での展示会への参加を進んで行っている。	散歩や買い物など外出時には近所の方と挨拶を交わされたり、地域イベントへの参加など、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援をされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご相談に来所される方などに対し、認知症ケアの知識や方法、今後のアドバイスを入所するしないに問わずしっかりと行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎の定期開催で市役所、地域包括支援センター、自治会、入居者様ご家族に貴重な意見を賜り、議事録に結果を残している。	運営推進会議では、事業所からの利用者の暮らしぶりや活動報告のほか、事業所の取り組みについての質問や事故防止対策など、参加者からは地域の情報提供など、幅広い内容での意見交換が行われ、有意義な会議運営をされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適宜、適格なご指導を頂き、良好な協力関係を築けている。	行政の担当や生活福祉課、地域包括支援センターとは密に連携を図り、事業所の取り組み状況を説明し、相談や情報の共有等が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者より事例ごとに指示を出し、原則的に拘束を行わないケアを心掛けている。ご利用者様ご家族へは随時連絡を行い、やむを得ず実施する際は許可を得て記録に残すようにしている。	身体拘束廃止委員会が定期的開催されると共に、職員研修も行われ、全職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、言葉での拘束を含め、行動の抑制をしないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1回以上ミーティングを行い、職員間の声掛けを意識づけている。気になることは管理者へ報告があがる関係性を築いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内研修を通じて常に学ぶ機会をもち、ご相談に対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に苦情相談窓口を案内し、個別に職員が対応したご意見、ご要望は管理者への報告を周知している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ミーティングを多く設けることで、重要なことは職員全員で話し合ってから決定している。	「外出したい」、「買い物をしたい」など、利用者の要望に応えられている。家族については面会時や電話連絡時などで意見・要望を聞き取られ、サービスや事業所運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を設ける他、事務所のドアを解放し、相談に乗りやすい環境を作っている。	定例会議や個別面談時に聴き取りをされるほか、発言し易い職場環境がつけられ、日常的に意見・提案が行われ、イベント企画や個別ケア対策など、具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職務規定に従い、公正な視点をもって評価している。物価高騰に伴う手当を付与している。福利厚生についてアンケートをとり、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修を行ったり、資格取得に対し半額から全額の補助を行っている。また外部のオムツ研修などを取り入れスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡部会や地域ケア会議に、管理者が出席し他事業所との情報交換や相互訪問を行い良好な関係作りができています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の訴えに耳を傾け困りごとや要望等を傾聴しご本人が安心出来る支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気兼ねなく相談ができる関係性を意識し、ご家族の細かい要望まで聞き取るようにしている。また、それに対して応えられるように環境を整えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状どのサービスが適正なのかを各職種で考え、提供している。必要があれば関係機関との連携も速やかに行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	気持ちを汲むことで、信頼関係を構築し、ご利用者様が遠慮なさらないような関係を意識して声掛けなどを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族の目標に向かって一緒に対応策を考えながら業務にあたっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや散歩で馴染みの場所の近くを通ったり、友人の方の訪問にも可能な限り対応している。	友人・知人の面会、初詣や住み慣れた地域へのドライブのほか、馴染みの店での買い物など、これまでの関係が途切れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの人である感覚を持っていただくように席の配置を考え、気の合う仲間と過ごしていただくように工夫している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、その後の状況を聞き取りし、安定するまでがサービスの一環と捉えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の要望には可能な限り応えている。また意思疎通の難しい方でも、その方が過ごしやすい環境を全員で模索している。	利用者とのコミュニケーションと信頼関係を大切に、声かけを行うことで、思いや意向の把握に努められている。言語表現の困難な利用者についても、日頃の関わりの中で、表情や仕草などからくみ取られ、利用者本位に検討をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去や、生活歴、元々の職業、家族構成など、細かく聞き取り職員間で共有することで不安にならない声掛けを意識している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各専門職や、提携医療機関と連携し、ADLの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の御意向に沿って、各専門職で話し合いを設け、介護計画の作成を行っている。また毎月のモニタリングにより試行と改善に取り組んでいる。	利用者・家族から思いや意向を聴き取り、医師・看護師からの指示を含め、全職員の意見やアイデアを活かし、その人らしさを大切に、いつまでも元気に過ごされるよう、きめ細かな介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや日報、個別記録を通じ、いつ何があったかを共有することで、常に見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事情を話していただければ、決め事に捉われず、相互が一番納得できるように対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員が地域資源を把握し、必要な時にはすぐに協力を仰げるよう関係を構築している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応していただき、体調を管理している。往診医の指示で受診の対応も行っている。医師の指示や処置に関しては速やかにご家族へ報告を行っている。	入居時に希望のかかりつけ医を選択していただき、状況に応じて協力医療機関への変更の相談にも応じられている。日常的に定期的な往診や看護師による健康管理が行われ、緊急時にも対応できる体制が整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	処置や経過観察など、明確な指示を出してもらうことで現場との摩擦が生まれないようにしている。管理職や介護支援専門員との情報共有を随時行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中のご利用者様の近況や体調に関して、ご家族との情報交換を随時行い、入退院時はサマリーや直接の訪問にて細かく聞き取りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化を医療機関と確認し、細かくご家族に連絡を取っている。週末は特にご利用者様とご家族への配慮を念頭におき納得がいくまで話し合いをしている。	利用者の症状に合わせ、重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意思統一を図られている。その後も意思の確認を進めながら、医師・看護師と連携のもと、重度化や終末期支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のフローをマニュアルとして掲示し、全員が同じ対応をとれるようにしている。定期的に看護師とマニュアルの見直しも行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間、どちらも想定した訓練を定期的に行っている。消防署と連携し、「この時はどうすればいいか」「こういう状況のご利用者様はどう避難させればいいのか」を聞くようにしている。	定期訓練では火災発生を想定し、初期消火・通報・避難誘導訓練に取り組まれている。また、地震やライフライン断絶対策の検討・備品整備など、体制整備に努められている。	災害対策は十分取り組まれています。高齢者を預かる事業所として、訓練を重ねて課題を見つけ解決するなど、組織対応力の維持向上に向けた継続的な取り組みに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様であることを理解し、接遇の研修を毎月行うことで、使ってはいけない言葉を排除していき、自分の親を預けたい施設にできるように意識づけを図っている。	共同生活の中でも利用者おひとりで過ごす時間も大切にされるほか、口論の際には公平・平等の思いを持ち対処されるなど、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応など、きめ細かな支援が行われている。	利用者が笑顔で過ごしていただくために、傾聴と共感の気持ちで接いられています。より優しく、高い接遇レベルの向上に向けた取り組みに期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介助の前後に、これから入る介助内容をお伝えし、終了時にもその旨をお伝えするようにしている。拒否があれば時間をおくなどの対応を取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、ご利用様が散歩がしたいなどの要望があれば必ず行くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に全員の整容状況を確認し、必要があれば介入している。定期的に訪問理容を呼んで、本人の意思に沿って整容を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理スタッフと、食事の盛り付けや味について随時話し合っている。下膳や食器洗いや食器拭きに関してお声掛けをし手伝ってもらっている。	利用者の個々の状態に合わせて、食器洗いなど後片付けを職員と共に行われている。季節毎のイベント時には特別食が提供されるほか、おやつ作りを楽しむなど、食の楽しみを大切に支援に取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や量が一目でわかるように工夫し、禁食などの注意事項も全員が把握できる環境を整えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの方法や介入レベルを全員が把握し、ご利用者様毎に対応を変えている。訪問歯科により口腔内の不具合にも迅速に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各ご利用者様に合わせて、パットの種類や排泄時間を考え、最適のパットを最適の時間に交換できるように工夫している。自立度の具合により、介入頻度を考えたり、極力自力でできるような声掛けや誘導を行っている。	トイレでの排泄を基本とし、利用者一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜、声かけを行なうほか、利用者個々に事前誘導を心掛けるなど、きめ細かなケアをされ、負担軽減と自立にむけた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の頻度や、身体への負担を考え、下剤の調整や自力排泄の促しを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否があった場合には無理に入れようとせず、に、時間や日を改めて対応するようにしている。身体に負担のかからない限り、ご自身で上がるタイミングを決めて頂いている。	週2回の午前中の中の入浴を基本とされているが、利用者の状況や希望に応じて柔軟に対応されている。機械浴が設置され、全ての利用者が湯船につき、入浴剤や好きな音楽を聴きながら入浴を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝はご本人が眠くなるまで、自由に過ごしていただき、眠そうにしていたら就寝介助に入るようにし、安眠や熟睡を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の処方通りに服薬管理、確認を行い、身体状況について日々観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様ごとに役割を与え、自ら職員の仕事を代わってくれる環境ができています。趣味趣向を理解し、個々で習字や裁縫などの対応も行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に出かける際など、ご利用者様も同行していただき外出の機会を増やしている。散歩やドライブも頻度を多くし、地域交流や精神の安定を目指している。	現状、外出は自粛しているが、少人数となるが事業所周辺や近くの公園などに散歩に出かけられるほか、季節の花見や買物など、利用者の希望を大切に支援に取り組まれている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方に対しては、財布を用意して、外出時に飲み物やお菓子を買う際に使っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に制限なく対応しているが、親族以外の来訪や入電に関してはご家族に確認を取ってから対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアのテレビを新調し、全員が平等に使えるようになった。温度や湿度の管理をしっかりやりながら、定期的に換気を行っている。その時期に合わせて作品を作って飾ったり、手作りカレンダーで季節を把握できるように心掛けている。	玄関ホールには花が飾られ、テーブルに椅子、ソファが置かれ、緑豊かな中庭を見ながら、ゆっくり過ごせる設えになっている。リビングも清潔感ある明るい環境が整えられ、利用者が落ち着いて、ゆっくり過ごせるよう工夫をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席などはできる限りご本人に決めていただき、玄関付近にくつろげるスペースを作ることで、独りになりたいご利用者様にも対応ができています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などの持ち込みは制限せず、ご本人が落ち着ける居室作りを目指している。	馴染みの寝具や筆筒、家族の写真や仏壇などが持ち込まれ、居心地良く、落ち着いて過ごされるよう工夫をされている。また、共用スペースを含め、毎日、掃除・換気・消毒を行うなど、清潔維持と感染症対策に取り組まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を考慮した設計になっている。事務所や厨房への入り口は日中特に制限せず、自由に行き来できる。		

(別紙4(2))

事業所名: 北本ひまわりケアサポート

目標達成計画

作成日: 令和6年2月7日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	定期訓練を実施し、備品整備や、ライフライン断絶時の体制を整えているが、関連施設の連携フローが上長のみで共有されている為、上長との連絡が遮断された時を想定しなければならない。	上長不在時、連絡不通時でも、全員が同じ行動をとれるように災害フローを作成する。緊急時に誰が対応するかを指揮を取る。また、ご利用者様の状態変化に応じて対応策を訓練時に質問しておくことで迅速な避難に繋げたい。	指揮を取るスタッフを選任。 災害フロー時の指揮の取り方について上長と共有。 他スタッフへの周知。 消防訓練の際に質問事項として、事例を用意しておく。	12ヶ月
2	36	接遇研修を頻繁に行い、職員間で注意をしあえる環境を目指してはいるが、至らず。使ってはいけない言葉の理解はできてきたが、配慮に欠ける場面もまだ多く見られる。	ご利用者様一人ひとりに配慮ができる施設にする。 尊厳を感じられる生活の場を提供しなければならない。	接遇研修の内容を、参加形式やディスカッション形式にして、考えながらの研修にする。 互いを注意できる環境にする。 尊厳について、何をしたらいけないのかをハッキリと明示する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。